

四條畷市総合教育会議（令和2年度第2回）

会議録

四 條 畷 市

1 令和2年8月28日 午後2時30分 四條畷市委員会室において、四條畷市総合教育会議を開催する。

2 出席者

市長	東 修平
教育長	植田 篤司
教育長職務代理者	山本博資
教育委員	吉田知子
教育委員	竹内千佳夫
教育委員	佃 千春

3 事務局出席者

総合政策部長	藤岡靖幸
兼魅力創造室長	
教育部長	上井大介
教育部次長	阪本武郎
兼青少年育成課長兼主任	
教育部次長	賀藤久道
教育部次長	木村 実
兼学校教育課長	
兼教育センター長	
教育総務課長	板谷ひと美
教育総務課施設整備担当課長	勝村隆彦
秘書政策課長	木下順代
秘書政策課事務職員	安田直由

4 会議録作成者

秘書政策課事務職員	安田直由
-----------	------

5 案件

- (1) 四條畷市教育大綱の策定について
- (2) 市立小中学校における教育の情報化整備計画に基づくGIGAスクール構想の進捗について
- (3) その他

<p>総合政策部長兼 魅力創造室長</p>	<p>定刻になりましたので、令和2年度第2回四條畷市総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>本日は、全員のご出席をいただいております。</p> <p>本日の案件といたしましては、次第に記載しておりますとおり、1番目に四條畷市教育大綱の策定について、2番目に市立小中学校における教育の情報化整備計画に基づくGIGAスクール構想の進捗について、としております。</p> <p>本日も円滑な会議の進行にご協力をお願い申し上げます。</p> <p>なお、会議録作成のため、録音をさせていただきますので、お手元にごございますマイクをお使いいただき、ご発言をいただけますよう、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、はじめに、市長から挨拶を申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>本日も公私何かとお忙しい中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。</p> <p>いわゆるコロナ禍において、教育現場のなかで例年とは違う判断をしなければいけないことが多々あったかと思えます。そうした刻一刻と状況が変化する最中、常に柔軟に生徒・児童のことを思って、ご対応いただいておりますことに心から感謝と敬意を表したいと思えます。ありがとうございます。</p> <p>さて、本日ですが、そうした先の見えない、これから起こりうる新しい未来も見据えた上での教育大綱を定めていくにあたり、最後のご議論をさせていただければと思います。</p> <p>思い起こせば昨年の秋から、未来教育会議と、この総合教育会議のなかで、それぞれご意見をいただきながら、皆さんのご意見が一つに集約されてきたと思っております。なるべく多くの皆さんのご意見を、可能な限り反映させようと努めて、本日ご説明させていただく案に至っております。まだまだ十分でない点もあるかもしれませんが、そういった点をご議論いただければと思います。</p> <p>GIGAスクールや、その他の案件もあると伺っておりますが、限られた時間の中、どうか実りのある会議となりますよう、よろしく願い申し上げまして、簡単でございますが挨拶に代えさせていただきます。よろしく願いいたします。</p>
<p>総合政策部長兼 魅力創造室長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、市長、会議の進行よろしく願いいたします。</p>

<p>市長</p> <p>総合政策部長兼 魅力創造室長</p>	<p>はい、それではお手元の次第に従いまして進めてまいりたいと思います。まずは、配布資料につきまして事務局から説明をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、配布資料につきましてご説明をいたします。まず、本日の次第、次に資料番号1、教育大綱（素案）、これは前回4月22日での総合教育会議で、お配りさせていただいたものでございます。次に資料番号2教育大綱（原案）、これは前回の会議でいただきましたご意見を、事務局にて反映させたものとなっています。次に資料番号3、意見公募手続き結果概要について教育大綱（原案）について、令和2年5月15日から6月15日まで意見公募を実施した結果で、資料番号4は、教育大綱の最終案となっています。</p> <p>続きまして、資料番号は付けておりませんが、ホッチキス止めした「市立小中学校における教育の情報化整備計画に基づくGIGAスクール構想【改訂】」と、「市立小中学校におけるICT利活用計画」、1枚ものの四條畷小学校の保護者の方を対象とした学校生活に関するアンケート結果」となっています。説明は以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは次第の1、四條畷市教育大綱の策定について、まず事務局から説明お願いいたします。</p>
<p>総合政策部長兼 魅力創造室長</p>	<p>それでは私の方から説明させていただきます。</p> <p>主に資料番号2教育大綱（原案）を使ってご説明いたしますが、前回にお示ししました資料番号1の素案も、適宜ご覧いただければと思います。</p> <p>それでは資料番号2教育大綱（原案）の3頁をお開きください。まず、基本理念の文章につきましては、前回の会議で、めまぐるしく変わっていく世の中であるので、そういったニュアンスを追加してはどうかというご意見をいただきました。確かに大きな社会的な変革期であるとの認識でございますので、上から3行目の後半部分に「環境の変化が激しく、より複雑性が増す現代社会において、生きる力を育む観点からも」という言葉を挿入いたしました。</p> <p>次に、4頁をご覧ください。めざす教育像の1番目の、めざす子ども像につきましては、前回の会議で、「違い」というところでご意見をいただいております。得意、苦手という言葉だけでなく、様々な面も含めて「違い」ということを示すためには、もう少し並列の言葉を入れてはどうかとのご意見をいただきました。</p>

総合政策部長兼
魅力創造室長

こちらにつきましては、その趣旨を踏まえまして、文章に厚みを持たせるため、説明文の1行目に「子どもたちは」の後に、「それぞれ好きなものや嫌いなものが違えば、得意なことや苦手なことも違います。」と修正いたしました。

次に2番目の「めざす教職員像」につきましては、前回、先生という仕事は、子どもを伸ばすということが大事なので、そういった記述が必要ではないかというご意見をいただきました。

こちらにつきましては、確かに子ども理解だけではなく、子どもを理解したうえで、子どもを伸ばしていくという部分が必要であると考えますので、説明文の下から5行目の後半に、「その理解を基に、教職員は子どもの可能性を伸ばしていくことが大事です。」という言葉を追記しております。

また、前回、下から2行目の「集団づくり」の後ろに（チーム作り）という表記がございましたが、チーム作りはあくまでも教職員がチームとなって取り組むことであるため、こちらも紛らわしい表現なのでは、とのご意見をいただいております。

これにつきましては、確かにタイトルのチームと紛らわしいということから、（チーム作り）の表記を削除いたしております。

また、併せて、冒頭文の「教職員にもそれぞれの得意分野があるはずです」という文章を「教職員にも得意分野があります」としてございます。

次に、5頁をお開きください。3番目のめざす学校像につきましては、説明文の上から2行目の「連携」を「連携することが大事」とだけ標記しておりましたが、連携だけではなく、つながりを大切にすることも大事では、というご意見をいただいております。

こちらにつきましては、確かに連携してという言葉はいろいろな捉え方があり、つながりという意味合いも含めていきたいと考えましたので、上から2行目の後半の「連携し」の後に、「そのつながりを大事にしながら、地域全体で子どもを支えることが必要です」と修正いたしております。

次に6頁をご覧ください。基本方針1につきましては、特に内容としての修正はございません。

次に、基本方針2につきましては、前回、習熟度の言葉の後に、発達度合という言葉を使っておりましたが、表現方法がふさわしくなく、特性に応じてという表現が適当ではないかというご意見をいただきました。

こちらにつきましては、適切な文言に修正する必要があるとの認識から、説明文の1行目に「一人ひとりの特性に応じて習熟度等に

総合政策部長兼
魅力創造室長

違いがあることから」といたしました。

次に、7頁をお開きください。基本方針3につきましては、前回は説明文の上から3行目の文章を「教職員は、これまでの学校が担ってきた以上に多くのことが求められています。」としておりましたが、求められているというのは傍観者のではないか、むしろ、教職員が多様な力を身につけなければいけないという観点が必要ではないかというご意見をいただきました。

これにつきましては、確かに一般論的な記載になっているので、より主体的な文章に変えていきたいとの思いから、「教職員は、これまで担ってきた以上に様々な対応が必要となる」と文章を修正いたしました。

次に、前回の素案では、基本方針4を「“おせっかい”が活きる共同体」、基本方針5を「福祉と教育の“切れめない”支援」としておりましたが、順序を入れ替えたほうが良いのではというご意見をいただきました。事務局としましても、基本方針の3から5までを順番に、学校、行政、地域という並びの方がいいと考えましたので、順序について、基本方針4を「福祉と教育の“切れめない”支援」、基本方針5を「“おせっかい”が活きる共同体」といたしました。

基本方針4ですが、前回の素案では「市の教育部局と福祉部局」という文言で記載をしておりましたが、他の部分では本市とあり、文言を統一したほうが良いのでは、というご意見をいただきましたので、「本市の教育委員会と福祉部局」と文言を修正いたしました。

また、前回の素案では特に支援が必要な子どもの後ろに、「複雑な家庭環境にいる子ども」と記載しておりましたが、複雑な家庭環境というのは何をさすのか、容易に分かり辛く、むしろこういう表現はすべきものではないのでは、とのご意見をいただきました。こちらにつきましては、本市の人権的な観点から、複雑な家庭環境という文言は削除し、また、地域住民等の関りとも関連するのですが、子どもの居場所づくりについても、これからは大事な観点であるとのご意見も受け、「特に支援が必要な子どもに対応できるよう、子どもの居場所づくりも含め」と文言を修正しております。

また、「未就学期、就学期、卒業後」という表現についても、独自の表現になっているというご意見をいただき、他の関連計画の表記と合わせ、「就学前、就学时、卒業後」という表現に修正いたしております。

また、「切れめない」と「切れめのない」という文言が統一されていない点につきましてもご指摘をいただき、説明文の最終行の文言を修正いたしております。

総合政策部長兼
魅力創造室長

次に、基本方針5ですが、「おせっかいが活きる共同体」につきましては、説明文の下から2行目の共同体づくりという内容がわかりにくいのでは、また、共に育ちあうという観点が大事なのでは、などのご意見をいただきました。

こちらにつきましては、共同体づくりのイメージができる文章が必要であり、また、共に育ちあうという観点も大事であるとの認識から、上から4行目に「進んで力や知恵を出し合うことで、お互いにとってより良い関係が育まれると考えます。」や、下から2行目に「ともに育ちあうような共同体づくりに取り組みます。」といった文言を加え、文章を全般的に修正いたしました。

また、全般的な修正として、文章中の「子どもたち」と「子ども」という表記について、「子どもたち」が適切な部分と、「子ども」と限定する場合が適切な部分と整理をする必要があることについてご意見をいただきました。

これについても、適切な表現となるよう、「子どもたち」と「子ども」の表現を修正しております。

なお、最終頁につきましては、体系図の表記を変更しております。資料番号2の説明としては以上になります。

次に、資料番号3の意見公募手続結果概要をご覧ください。4月に実施いたしました総合教育会議での議論を経まして、5月15日から6月15日まで意見公募手続きを行いました。

結果といたしましては、1件のご意見をいただきました。出された意見は、めざす教職員像の「一人ひとりの個性が活きる集団づくりについても、」の部分「一人ひとり個性がいきるよう」に変えてほしい、という意見でございました。

意見提出者の保護者としてのご経験から、集団づくりについては、教員の主観に基づく「教員が理想とする学級集団」をつくるのが目的となると思われており、適合できない子どもたちの、いじめと不登校につながり、子どもの人権を侵害し、子どもを追い詰める原因になる。教員は子ども一人一人を理解することに努め、子どもの個性を活かす手助けをし、様々な子どもたちが各々に尊重しながら、繋がりあえるように尽力すれば良い、との考えで「集団づくり」という言葉を入れるべきではないとして、こちらのご意見を出していただいております。

市としては、教育大綱の基本理念は、「個性をみんなを活かすまち」であり、子どもたちの個性をそれぞれ互いに大切にしていけることを前提としています。そのため、意見を提出された方が心配されているような、教員の主観による、教員が理想とする学級集団づくりが

<p>総合政策部長兼 魅力創造室長</p>	<p>行われるものではないものと考えており、「めざす子ども像」は各学校においては、校長のリーダーシップのもと、保護者及び地域からの声を取り入れながら策定する「学校経営計画」のなかで定める集団づくりも、その趣旨に沿って行われます。ご意見を提出された方がご心配されているような「学級集団をつくる」ことを目的とすることがないように、「教員による子ども理解」と「子ども同士のつながりを通じて、社会で生き抜く力や、子どもたちの可能性が伸ばせるような、子ども主体の「学級集団づくり」の実現に向けて、取り組んでいきたいと考えております。このことから、(2)のめざす教職員像の集団づくりは、現行のまま残すこととしております。</p> <p>次に、資料番号4をご覧ください。先ほどご説明させていただきました意見公募手続を行った後、7月16日に令和2年度未来教育会議第1回を実施いたしました。未来教育会議委員との意見交換におきましては、特に原案の変更というご意見はございませんでした。「非常にわかりやすくなった。」、「コロナの影響により学校現場は変化への適応が急務であり、実現化が求められる。」、「教育大綱のなかで個性や多様性を認めるという部分が出ているということは、意義深いと感じる。」、「今後は、絵に描いた餅にしないで、しっかりと計画をもって進めていってほしい」というようなご意見をいただいております。</p> <p>このため、内容はこのままとし、最後に識字の観点から、フリガナを付記しております。本日の総合教育会議を経て、四條畷市教育大綱として策定し、施行日については令和3年4月1日からとしたいと考えております。説明は以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>教育委員の皆様、そして未来教育会議委員の皆様、それぞれとの度重なる議論の上で、さらに意見公募手続も終了し、この教育大綱の策定に向けて進んで参りました。</p> <p>すでに意見公募手続を終了し、内容を大きく変更するという事はなかなか難しいのですが、内容が変わらない程度の言葉の表現、言い回し等、あるいはご意見等がございましたら、何かお願いできたらと思っておりますがいかがでしょうか。</p> <p>職務代理をお願いします。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>いろいろと検討していただいて、大変な作業だったんだろうなと思います。読ませていただいて、すごくやわらかい文言になり、中身がすごく具体的によく分かるような、文章表現になっているなと思</p>

山本教育長職務代理者	<p>います。</p> <p>実際に、めざす教育像のところで、子どもの姿、それから教員が子どもたちの可能性を大事にして子どもを理解するだけでなく、そういう可能性を伸ばしていくんだというような決意も分かりますので、文章的にまとまったとてもいい教育大綱になったと感じています。</p> <p>基本方針のところでも、子どもの主体が、基本方針1、2のところで表れ、なおかつ、教職員を中心として、地域、教育委員会も行政もそうですけれども、それをサポートしていくという形が、基本方針のあとの3、4、5で読み取れますので、きっちりとしたシステム的な教育大綱になったと思います。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>最初の案からしますと、いまおっしゃっていただいたように、教育委員の皆さんや、未来教育会議委員の皆さんからご意見をいただくなかで、少しずつ少しずつ、いま職務代理がおっしゃっていただいたような形に精練されていったのかと思います。ありがとうございます。</p> <p>その他いかがでしょうか。はい。佃委員お願いします。</p>
佃委員	<p>失礼いたします。先日、未来教育会議の委員でもいらっしゃる和田委員とゆっくりお話する時間があったんですけども、素晴らしいものができたねと。こういう大綱は、他の市とかでも、他の県とかでも見たことがないと言っていました。</p> <p>その一つとして、使用された言葉が子ども目線で、やっぱり子どもがやってみたいとか、そういった子ども目線である言葉であること、それと一般の市民の方が聞かれても、「ああそういうこと」とすぐイメージができるという、この二つの点でも私は本当にありがたいなと思っています。</p> <p>私がすごく好きなフレーズは、基本方針の最後の「おせっかいが活きる共同体」の最初の説明文に、本市の良さである思いやりのあるおせっかいの心。と、体言止めをしていただいた。これがとてもいいなと思いました。市長がおっしゃっていた、事務局と教育長と一緒に脳に汗をかきながら考えましたという、議事録からの言葉にジンとしました。</p> <p>やっぱりここまで考えていただいて、私たちはどちらかという、私なんか特にですが行政出身のところもあるので、教育的な行政用語を使いたがる傾向にあるのですが、それを排除していただいたこ</p>

<p>佃委員</p>	<p>とが逆に教育大綱としては良かった。その分、今後の振興計画っていうのが、どんなふうには作らないといけないのかというあたりは、また市長と教育長とよくご相談いただいて、画期的なものになればいいと思うなかで、1点だけ、これを入れてほしいと思うのが、4ページのめざす教職員像の一番下の行なのですけれども、「チームで子ども理解に注力している教職員」の一番下、2行読みますと「子どもたちに働きかけていくことで、子どもたちが社会で生き抜く力が育まれると考えます。」とあるのですが、やっぱり集団づくりのなかで子どもたちが自分で関わってみようっていうその意欲というのがすごく大事だと思うので、子どもたちが社会に「参画し」という、参画という言葉を入れると、参画してそのなかで生き抜くっていう方が格好良くないかなと。こんな偉そうなこと言ってすみませんが、それは少し思いました。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>和田委員のお話もしていただきましたが、今回、教育大綱を策定するにあたり、和田委員のみならず、多くの方々が忌憚なくご意見を言っていただけたのかと思っています。</p> <p>表現がこうした平易な形になっているのも、最初にお示ししたのは、決してそんなことはなく、こういう表現になったのも、教育委員の皆さんや、未来教育会議委員の皆さんが分かりやすいほうがいい、現場の先生も分かりやすい、市民の皆さんが見ても分かりやすいほうがいい、そういうようなご意見をたくさんいただいたなかで、この状態になったのかと思っております。</p> <p>最後にいただきました表現につきましては、お示しのとおり、社会で生き抜く力という表現だけだと、「個」として生き抜くというような読み方もできるので、なるべく集団づくりという観点からも参画することで、社会に溶け込みながらというようなニュアンスを出すという意味と解釈しましたが、そういう意味でしょうか。</p>
<p>佃委員</p>	<p>はい。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>そちらにつきましては、我々がめざしている方向性、教育の方向、基本方針の方向性にも、基本的なラインとして同じかと考えますので、最後に事務局と調整はさせていただきますが、基本的にはそのような形で進めさせていただければと思います。ありがとうございます。</p>

市長	<p>その他いかがでしょうか。竹内委員、お願いします。</p>
竹内委員	<p>はい。私もこの教育大綱(案)を読ませていただいて一番感じたことは、先ほど言われたように、やっぱり非常に分かりやすく、そして誰が見ても、理解できるっていうのはすごくいいなと思うのです。</p> <p>当然、教職員だけではなく、保護者であり、また地域の方々とか、様々な方たちが見ることになりますので、良かったと思います。</p> <p>特に思ったのが、やはり全体を読むと、教育というのは学校だけではなく、やっぱり家庭もそうだし、地域もそうだしという形で、みんなでやっていこうという、そんな熱意が伝わってくる。そして、ひいては暇の教育がすごく見えてくる、イメージしやすいという、そういった部分をととも感じました。</p> <p>今後、これを絵にかいた餅にならないようにするにはどうしたらいいかということで、先ほど出ましたように、教育振興ビジョン等で具体化していく、そしてさらに、現場の方でどうそれを具体化していくのかというような実践が、これからの大きな課題になってくるのではないかと考えております。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>お示しのとおり、こちらはあくまで大綱であって、大きくめざしていく方向性を示す位置付けであり、法律上は首長が定めるとなっているものなんですが、あくまで教育の現場でどのようにしていくのか、これは教育委員会の皆さんでお決めいただき、さらに実行を担っていただく部分にはなりますので、今後、振興計画のなかで、この大綱というものも参酌していただきながら、定めていただければと思います。</p>
教育長	<p>はい。再度、いまの最終案の2頁をご覧いただきたいのですが、今回定められました教育大綱が、子どもの教育、広義の広い意味での教育の理念ということで定められています。</p> <p>つきましてその右側にある教育振興基本計画、この策定に際しては、社会教育分野、生涯教育等含めまして、これらの理念を明確化するとともに、当然、先程の教育大綱と同じようにやわらかく、市民にしっかり根差した、寄り添った、そういうような理念化を図って、この教育基本振興基本計画の策定に進みたいと思います。</p> <p>そして振り返りまして、ちょうど1年前の夏に、各学校の教職員にヒアリングをさせていただきました。計10校ですね。それを振り返りますと、実はこんな言葉がございました。</p>

<p>教育長</p>	<p>すべての学校の先生方から、「繋がり」、「関わり」、「一緒に」等のキーワードがございました。そして印象的なものが、例えば「社会に出た時に持ち味が生きる個性を育てていくことは大切」こちらは四條畷西中学校の先生からでした。</p> <p>それから、「教育、福祉、医療の連携、教育だけでは乗り越えられない。」これは四條畷南小学校の先生から。それから「やりたいことはたくさんあると、大人はそれを中途半端という。一つのことを続けることが偉い違う。やりたいことがいっぱいあるを大切にしたい。」これは忍ヶ丘小学校の先生から。ということで、実は先生方のご意見が、見事に反映された教育大綱になっている、いま改めて振り返るとそう思います。</p> <p>最後、まとめますと、この最終頁にある基本理念の言葉、教育像の中に含まれている、「認め合える」とか、「チームで」とか、「連携して」、それから右側にある基本方針のなかに、ここも「支え合える」、「切れめない」、「おせっかい」。これらすべてコラボレーションだと思います。</p> <p>そして、「やってみよう」「やってみたい」、こちらはモチベーション、というふうにも全ては一つに収斂されているような、非常に分かりやすい。ちょっと手前味噌なんですけども、そのような印象を持っております。</p> <p>私たち教育委員会として進むべき方向、その決意を込めて、コメントとさせていただきます。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。職務代理、お願いします。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>もう協議がまとめられているのですが、少しだけ意見をさせていただきます。</p> <p>1点は、意見公募をされてパブリックコメントを1件いただいているということなので、これについて我々として答えておかなければならないと思いますので、私の考えを述べさせていただきます。</p> <p>先ほど事務局の方が言われたことと同じなのですが、「集団づくり」について、ご意見をいただいた方は、外すということをおっしゃっているんですけども、私どもは集団づくりというのはすごく大事な教育の観点ですので、それは入れるべきだと思っています。ここで述べられているのが、教職員の主観に基づく理想とする学級集団を作るのが集団づくりだと発想されていますけれども、実はいま、多くの学校で、先生方がめざそうと思っておられる集団づくりはこれではなくて、まさしく書いておられるとおり、一人ひとりの個性が生き</p>

<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>る集団づくりという視点で学校教育をしていますので、それについては、書かれている意見と何ら反するものではないというふうに思っています。それがパブリックコメントに対する私の意見です。</p> <p>それから、文章表現で1点だけ気になったところがあります。それは基本方針5のおせっかいが活きる共同体のなかで、子どもの育ちと同時に、地域住民、教職員も含めてという部分があり、そういう育ちというか新たな気づきがあるはずだという形で、文章が書かれており、この考え方については全くそのとおりだと思います。ただそこで、「地域住民等にとって新たな気づきがあるはずです」というふうに、表現されている部分が、少しきつい感じがします。</p> <p>先ほど、めざす教職員像のところの、「チームで子ども理解に注力している教職員」というのがあったと思いますがけれども、そこのところでは、「得意分野があるはずです」というのを、「あるはずです」を外して、「あります」に変えたと思うんですね。ここも「あるはずです」という、当然それがあるんだという、少しきつい表現になりますので、もう少しやわらかく、「あります」等とかに変える方がいいのではないかなと感じました。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>いまおっしゃっていただいたところ、この「はず」という表現に強いこだわりがあるわけでもなく、おそらく事務局等含め、一生懸命書いているなかで力強い文言になってしまったのかなと思います。</p> <p>確かに、「はず」という表現、他には出てこず、ここにポンと出てくる形になっておりますので、最後、事務局のほうで語尾の言い回しについては、いただいたご意見を踏まえて調整させていただければと思います。</p> <p>その他いかがでしょうか。吉田委員お願いします。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>はい。私も皆さんのご意見と同じように、とてもいいものができ上がったなというふうに感じております。ルビも打っていただいて、より多くの方に分かりやすくしていただいたと思っています。</p> <p>言葉の使い回しなども、とてもやわらかく、入ってきやすい、心に入ってきやすい文章になっていると思いますので、ぜひ多くの方に読んでいただいて、学校の教職員の方だけでなく、やっぱり保護者の方も寄り添って子どもを育てていかなければいけないと思いますので、お互いに分かり合うことが大切だと思っています。</p> <p>やっぱり考え方というのは、同じ方向に向かっていっていただかないと、いろんな意見の食い違いも出てくると思いますので、そう</p>

吉田委員	<p>いう面でも、これからも寄り添っていくことが大事だと思います。</p> <p>それから私も意見公募でご意見をいただいた事について少し触れさせていただくのですけれども、ご意見をいただいた方の内容についてはとても分かる内容だと私は思っています。やはり集団づくりという観点の言葉については、その集団に入っていけない子どもを持つ保護者さんにとっては、ちょっとやっぱりこのキーワードというのは、引っかかるものがあるのだろうなと思いますけれども、学校というものは集団生活をするためにある、集団生活に慣れていくためにある場所だと私は思います。ですので、集団づくりができないからといって悪い子ではないということも重々理解はしていますし、どういう集団をつくるかということも、みんなで作り上げていく、私のなかではこう理解していますので、その言葉を省くことはないと思いますし、この言葉を省かないからといって、みんなが集団に属さなければ、その子は悪い子という感覚がないようにだけしていく必要があると思っています。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>まさにいまお示しいただいたような趣旨で、意見に対する考え方も示させていただいているのかと思います。</p> <p>また、お示しのとおり、この教育大綱は、本当に保護者の方々にもしっかり読んでいただきたいと思っています。分量もいたずらに分厚いものにならず、読みきりやすい量を心がけてきたつもりです。</p> <p>本当に1人でも多くの保護者の方、先生そして市民の皆様、地域の方々にも読んでもらえるようにこれから頑張ってみていきたいと思っています。ありがとうございます。</p> <p>その他、何かございますか。佃委員お願いします。</p>
佃委員	<p>先ほどきちんとお礼を言えなかったのですが、私は総合教育会議のなかで本当に好きなことをいっぱい言ったにもかかわらず、それを全部反映していただいている、さらに分かりやすい言葉にしている、さらに良くしたいという思いで2点だけ伝えたいと思います。</p> <p>6頁の基本方針なのですが、「子どものやってみようを伸ばす」教育の3行目のところですが、自分で考え、行動できる力を付けることで、という「力を付けることで」という言葉遣いですが、やはりここは言葉、行動できる力を「身に付ける」だと思いますので、「身に」を入れていただくと、よりすらすらと読めるんじゃないかと思います。</p> <p>それから基本方針2の「子どものやってみたいが叶う環境」のと</p>

<p>佃委員</p>	<p>ころの2行目なのですが、それぞれの状況に適した学びができることが望まれるものでありと、「が」が2回続きますので、ここはちょっとひねって「学びの実現が望まれるものであり」というような言い方はいかがでしょうか、と提案させていただきます。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>これらのもののみならず、おそらくそれぞれの文章の中に、より分かりやすい表現というのがあるのかと思います。</p> <p>おっしゃっていただいたような「身に付ける」あるいは「学びの実現が望まれるもの」というような表現の方が、確かに読みやすくなっていくのかと思います。</p> <p>いずれにしても、確かに二つめの「が」が2回続くこと。基本、受動態を使うと文章自体難しくなるのですが、さらに「が」が連続しているところがありますので、こちらにつきましても最終的に読みやすくなるように、その前にいただいたご意見等も踏まえまして、他の教育委員の方からいただいたご意見を含め、本日いただいたご指摘すべてについて、読みやすい表現に修正させていただければと思います。ありがとうございます。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
<p>市長</p>	<p>もしよろしければ、繰り返しになりますが、本日いただきましたご意見を最終的に事務局の方で調整をさせていただくという形を前提に、本日お示しさせていただきました案を、四條畷市教育大綱をとって策定を進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは最終的に、本日いただいたご意見も調整させていただいたうえで策定という形で進めさせていただければと思います。</p> <p>本当に長期間にわたり様々なご意見をいただき、皆様のご意見のおかげで何とか分かりやすく、伝わりやすいものができ上がったと思います。重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、次第の1についてはここで終わらせていただきまして、次に次第の2、市立小中学校における教育の情報化整備計画に基づ</p>

<p>市長</p>	<p>くG I G Aスクール構想の進捗についてです。 まず、事務局から説明お願いいたします。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>市立小中学校における教育の情報化整備計画に基づくG I G Aスクール構想の進捗について、説明させていただきます。着座にて失礼いたします。</p> <p>4月の総合教育会議にて、新型コロナウイルスの拡大による学校の臨時休業が長期化するなか、子どもたちの学びの保障に向けて、国による補正予算が生まれ、1人1台端末の整備の前倒しが急がれること、また、当初から予定の高速大容量校内通信ネットワークの更新にも取り組む必要があることを報告させていただきました。</p> <p>これにつきまして、先ず、高速大容量校内通信ネットワークの更新については、6月に契約を締結し、8月から各校の工事に入り、年内の事業完了をめざし、ただいま取り組んでいるところでございます。</p> <p>また、1人1台端末の整備につきましても、6月の市議会定例会にて補正予算を計上し、8月初めに業者との仮契約を締結、9月の市議会定例会にて備品の取得に関する議決をいただいた後、早急に事業着手するべく、ただいま準備を進めております。</p> <p>これらのことから、平成30年11月策定の市立小中学校における教育の情報化整備計画の中に示す事業を一部取り出し、本年2月に策定いたしましたG I G Aスクール構想について、現状に応じた改訂を行いましたため、その内容を報告させていただきます。</p> <p>改訂の概要といたしまして、先ずお手元の計画の1頁では、新型コロナウイルス感染症の流行による子どもたちの学びの保障など、今回の改訂に至る経緯を追加させていただいております。</p> <p>続いて、3頁では、ネットワーク整備の対象箇所を国の補助対象と合わせ、ホームルームと支援学級へと見直し、ネットワーク整備を行う教室と電源キャビネットの台数を令和2年度の学級数に合わせて変更させていただきました。</p> <p>なお、ネットワーク整備の対象箇所の拡充につきましては、今後、国の方針やI C Tの活用状況を考慮のうえ、一定の検証を経て、改めての検討に付すこととしたいと考えております。</p> <p>また、端末の活用が増加することに備え、インターネット回線の増強が必要と考えており、1人1台の同時利用率を考慮した通信帯域を確保する旨、追加させていただいております。</p> <p>変わりました、4頁の情報機器（端末）の整備については、令和5年度までとしておりました段階的整備を、2年度の一括整備へと改</p>

<p>教育総務課長</p>	<p>め、整備台数を令和2年5月1日現在の児童生徒数へと変更し、最後に、5頁以降では、先の説明に合わせ、取組みスケジュールを修正いたしました。以上がハード整備面における変更点の概要でございます。</p> <p>ただいまの説明どおり、今年に入り、学校のICT環境は大きな転換期を迎えております。</p> <p>これに伴い、一定の定着が図られた後には、本構想の上位計画に位置する、小中学校における教育の情報化計画の改訂も見据えてまいりたいと考えております。</p> <p>続きまして、学校現場におけるICT機器の利活用及び教員のフォローアップについて、学校教育課よりご説明させていただきます。</p>
<p>教育部次長兼学校教育課長兼教育センター長</p>	<p>はい。私の方から市立小中学校におけるICT利活用計画の策定についてご説明申し上げます。着座にて失礼いたします。</p> <p>令和2年2月策定の「市立小中学校における教育の情報化整備計画に基づくGIGAスクール構想」による、1人1台端末導入に伴い、それら端末を十分に利活用するための指導体制の強化とともに、端末を有効に活用した授業づくりに関する指導力の向上を図ることを目的に、市立小中学校におけるICT利活用計画を策定いたしましたのでご報告申し上げます。</p> <p>では、計画をご覧ください。</p> <p>1頁からご説明いたします。ICT利活用計画の位置づけとしまして、策定の趣旨、計画の位置づけ、計画の期間についてお示しさせていただいております。</p> <p>4頁には、本市におけるICT利活用の現状と課題について、毎年行っている文部科学省アンケートの内容を記載しており、本市教員のICT活用指導力についての実態を示させていただいております。</p> <p>8頁には、この課題を受け、本市として取り組むべき課題について整理させていただいております。</p> <p>次に、9頁からは本計画の目標について触れ、本市の児童生徒に身に付けさせたい資質能力の考え方、目標について触れております。</p> <p>これらを受け、12頁からは計画の基本方針として、情報活用能力の育成による学びの質の向上、児童生徒一人ひとりの習熟に応じた学習支援の強化、分かる授業を実現するためのICTを活用した指導力の向上、デジタルコンテンツの充実、ICT機器環境の整備、校務支援の改善、セキュリティの確保などを示しております。</p> <p>16頁におきましては、より具体的なICTを活用した授業像につ</p>

<p>教育部次長兼学校教育課長兼教育センター長</p>	<p>いて触れております。</p> <p>18頁では教職員への研修とサポートについて。</p> <p>19頁では、この計画推進のための指標と評価について触れております。</p> <p>そして最後21頁では、今後の新しい学びの方向性を含めて示しております。私からは以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま事務局、教育総務課と学校教育課から説明をいただきましたが、加えて教育委員の方から何かご意見がございましたらお願いしたいと思いますがございますでしょうか。</p> <p>私の方から少しだけ確認をさせていただきたいと思います。ご説明いただいたICT利活用計画の方で1点だけ、第7章の19頁。指標等を評価という形で目標を立てていくということがあるかと思えます。</p> <p>それで、皆様もご存知かと思うのですが、いわゆる施策の評価の仕方は、三つしかございません。一つめは絶対値によって評価するというもの。例えば、市において交通事故の発生率がどうだったか。これは唯一一個の値に決まるので、分かりやすい指標の一つです。</p> <p>二つめが相対による評価というものがございます。例えば、北河内のなかで何番目に良かったかというのが、評価をする際にあります。</p> <p>三つめが、主観的なアンケートによるもので意見として集約するもの。この三つのどれかが必ず施策の評価としてあてはまります。</p> <p>今回、ICT利活用で見ていく指標が、三点めのアンケートのみとなっているのですが、アンケートによる評価の利点というのは、どんな施策にでも使える。いつでも使える。絶対値がとりづらかったり、相対値が比較しづらい時でも、アンケートをしてしまえば必ず何らかの値は出てくる。ただ、行うタイミングとか、その時の子どもたちの心境などによって、非常にぶれが出るという性質があるのが、アンケートによる施策の評価です。それがテスト直後に取ったアンケートなのか、楽しいイベントの後に取ったものかで、実際に大きくぶれが生じます。なので、施策を評価していくうえで、当然知恵を捻って置いてくださったと思いますが、絶対値であったり、相対値であったり、それぞれ全部がないといけないというわけではないですが、複数混ざるとぶれなく経年的に評価できるという側面もありますので、そういう観点も持って少しご議論していただけると、</p>

市長	より良い指標になっていくのではないかと個人的には思いました。 私からはそれぐらいです。教育長、お願いします。
教育長	はい。ありがとうございます。 これはそれぞれの計画のなかでということなのですが、個別に見たときに、例えば絶対値で表せるものとするならば、タッチタイピング。正確な入力とスピードでここまで出来たと絶対値で示されるわけです。もちろん早いから良いわけじゃないのですが、正確に打って、子どもたちが鉛筆と同じように使えるとかという、そういったものを、個別に検討していくことが必要かなと思います。
市長	ありがとうございます。 さきほどの教育大綱のお話で、各教育委員の皆様から、たくさん分かりやすいという表現をいただいた直後なので、どうしても気になってしまうのですが、横文字がたくさん出てきます。分野的にしようがないのだと思います。私としてはこの12頁とかすごく分かりやすいです。teaching から facilitating 及び coaching への授業。スッと入ってくるのですが、おそらくそうでない方もいらっしゃる可能性があると思います。もしかしたら一番良い表現なのかもしれないです。最後の「新しい学び」も、これはこれ以上表現できないのではないかと思います。おそらく、初見で読まれた方が、この Blended Learning の中身を読まれたら、これは日本語なのかというご意見が出るかもしれないので、より清廉された表現がもしかしたらあるかもしれないということは、先ほどのお話の後なので余計に思ってしまうのですが、付け加えさせていただければと思います。 私からはそれぐらいですが、よろしいでしょうか。職務代理、お願いします。
山本教育長職務代理者	新型コロナウイルス感染症の流行が後を押したと思うんですけれども、GIGAスクール構想を全国的に行うことになって、私は個人的にはICT化を含めて、良い方向性だなと思っています。 市の財政にとっては非常に大変なことで、そういう意味で言うと、市長の英断というか、そのことについては非常に感謝を申し上げたいと思っています。 先ほどの教育大綱との絡みもありますが、こういう形でGIGAスクール構想が本格化してきて、ICTの利活用計画ができたなかで、やっぱりどうしても学びについては根本的に変わっていかざるを得ないと思っています。

山本教育長職務代理者	<p>新型コロナウイルス感染症の流行も、今年度できれいに収束するなんてことは考えられませんし、来年度以降も続いていく可能性もあります。そうなっていくと、これを上手く好転させて、教育の学びのなかで、先ほど、吉田委員が集団の中に入れない子どもの話をされましたけれども、そういう子どもの対応も含めて、学びを変えていかなければならないかなと思います。</p> <p>そういう意味でいうと、新しい学びという項目をつけてありますが、我々は次の教育振興ビジョンで、教育大綱に基づいて、教育の分野、あと社会教育であるとか、生涯学習であるとかそういう観点も含めて、これから分かりやすく具体的に作っていかなければなりません。そういうところに、ぜひ、新しい学びとして反映をさせていきたいと考えます。またいろいろとご意見をいただけたらありがたいと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>お示しいただきましたとおり、とりわけ本年度はGIGAのネットワークに始まり、児童生徒1人の端末のみならず、校務支援システムであったり、これらの財政額というのは、多大なるものでした。</p> <p>しかしながら、教育は市にとって、今後100年先といっても過言ではないぐらい最も大切な投資の一つです。我々が日頃なぜ行革をやり、よりよい財政に努めているのかというと、こういう時に、いかにためらわずに財政出動ができるということに行財政改革はあるのです。削るための行革ではなくて、生み出すため、投資するための行革ですから、この市全体で生み出したお金を子どもたちに投資をしていくので、それをより良い形で生かしていただければというのが、市全体としての思いです。</p> <p>その上で職務代理がおっしゃっていただいたように、ここから本当に幅広い展開、子どもたちのみならず、社会教育を含めて、生涯学習という観点も様々広がってくると思います。</p> <p>ただ、繰り返しになりますけれども、やはり教育という分野より尊い分野は他にはないと思っているので、そういう分野にしっかりと投資をしていけるよう、我々市長部局としても、引き続き行革に取り組んで、ためらいのない投資ができるような財政状態を保っていきたいと改めてお伝えしておきます。</p> <p>その他いかがでしょうか。佃委員、お願いします。</p>
佃委員	<p>奇しくもいま市長が、すごく子どもたちへの思いがあって、これだけの予算を投じたとおっしゃるのであれば、この計画を成功させ</p>

<p>佃委員</p>	<p>るためには、18頁にある教職員への研修とサポートというところも、何としてもやらなければならないと考えます。いまどこへ行っても、研修がコロナ禍でできず、オンラインだけでは限界があるというなかで、タブレットを使った授業がどうできるのかや、ICTを使ってどんな授業ができるのかということが、一人ひとりの先生方が自分でできると言い切れるように、それも早急にやる手だてをやはり考えるべきと思いますので、ぜひそこはよろしく願いしたいなと思っております。以上です。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい。これは言うまでもないのですが、実は、コンピュータの操作そのものが難しいという、ひょっとしたらそういった誤解があるかもしれないんですけども、そうではなくて、いまやすべてがアプリケーションで、クラウド上でいくらでもできる。それをまず体験していただいて、子どもの学びと一緒になのですが、思ったより簡単にできるということが分かれば、加速度的に進んでいくと思います。そういった意味もあって、できるだけ実践を、ベストプラクティスを共有していくということ、ここに注力したいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>そうですね。加えて、GIGAスクールについて春から募集をかけて、専任的に担当する職員も9月1日から配置となります。多くの候補者の中から選ばれた、本当に知見のある方にご着任いただけるかと思しますので、ぜひチームとして取り組んでもらえればと思います。</p> <p>その他いかがでしょうか。竹内委員お願いします。</p>
<p>竹内委員</p>	<p>はい。この計画によって、いよいよ本格的に始まるということが、とても実感できますし、現場においても、使命感と言うのでしょうか、やらなければならないという決意というか、そういうものが出てくると思います。</p> <p>特に、この「新しい学び」では、今まで経験していないことを新たに展開するということになるので、もちろん、若干抵抗を持っている先生方もおられるかもしれませんが、研修とサポートが、今後求められてくると思います。</p> <p>あと、もう一つ私が今後心配することの一つとして、中学校では、技術家庭という教科が中心になりますが、小学校の場合は、「総合的な学習の時間」があり、理科、社会などいろんな教科において取り上げていくわけなんですけども、国語や算数等、様々な教科があります。カリキュラムの作成の段階において、これを様々な教科の中に</p>

竹内委員	活かしてしてやっていくのか、又、効率よくやっていくのか、そういったカリキュラムづくりを、今後やっていかなければいけないと思います。
市長	<p>おっしゃるとおりですね。変革というのは、いつの時代も、そして何を行うにも難しいことだと思います。この場におられる教育委員の五名の皆様が、本市の教育行政における最上位機関でございますから、ぜひ皆様のリーダーシップのもと、取組みに注力いただけたらと思います。ありがとうございます。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
市長	<p>よろしいでしょうか。それでは引き続きGIGAスクールについて、様々な困難があるかと思えますけれども、よろしくお願いを申し上げます。</p> <p>これで次第の2については終わりました。最後、次第の3その他につきましてお願いします。</p>
教育総務課施設整備担当課長	<p>本年度、先ほど説明がありましたGIGAスクール構想におけるタブレット整備と並んで、教育委員会の大きな事業の一つとして、小中学校への空調設備の整備工事を行っております。それにつきまして進捗状況をご報告させていただきます。着座にて失礼いたします。</p> <p>この予算につきましては、令和2年3月に実施設計が完了したため、6月の定例議会に補正予算として計上いたしまして、議決をいただきました。</p> <p>議決後、直ちに契約事務をすすめ、小学校におきましては、8月4日に入札を行い、17社の申し出があり、内3社が辞退、残り14社で応札いたしまして、7社が最低制限価格での入札であったため、くじを行い、株式会社日設関西支社が2億6,749万8千円で落札いたしました。</p> <p>また、中学校におきましては、8月19日に入札を行い、22社の申し出があり内5社が辞退、残り17社の応札中16社が最低制限価格での入札があったため、こちらにおいても、くじを行い、櫻井工業株式会社大阪支店が1億4,009万6千円で落札いたしました。</p> <p>これによりまして、請負業者は決定いたしましたが、予定価格が1億5千万円以上の工事につきましては、「議会の議決すべき契約及</p>

<p>教育総務課施設整備担当課長</p>	<p>び財産の取得または処分に関する条例」第2条において議会の議決が必要となることから、現在は仮契約の状態となっております。</p> <p>このことから、9月定例議会に上程を予定しており、そこで議決をいただければ、本契約となるため、議決をいただければ直ちに業者と打ち合わせを行い、工事を着手していくこととしております。</p> <p>なお、これら工事の工期につきましては、小学校は令和3年6月30日、中学校は令和3年4月30日までとなっております。</p> <p>以上、小中学校の屋内運動場空調設備整備工事についての、現在の進捗状況の報告となります。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>空調につきましては、今回は屋内運動場、体育館ですが、その後、普通教室、特別教室という形で計画をされているかと思います。コロナも大変ですけど、猛暑が明らかに年々激しくなっている。私が子どものころに、37度とか38度という表示を、見かけることはまずなかったと記憶しています。やはり、子どもたち、特に体の小さいお子さんにとっては非常に苦しい状況にさらされているかと思います。ですので、学びの中においては、なるべく学びやすい環境を整えるという思いで、こちらも投資していくこととしては非常に重要なところだと考えております。</p> <p>そうした中、本年度、先ほどご説明いただいたGIGAだけでも相当大きな事業にもかかわらず、並行して、空調整備という非常に大掛かりな事業、それも両方ともしっかりと入札も無事に終了を前半の間に終わっているというようなことを考えますと、教育委員会の皆さんをはじめ、事務局の皆さんのご尽力に、この場をお借りして感謝申し上げたいと思います。本当にお疲れ様です。ありがとうございます。引き続き、事業者が決まったということなので、一つひとつ、前に進めていただければなと思います。</p> <p>私から以上ですが、その他事務局等から何かございますか。</p>
<p>教育部次長兼学校教育課長兼教育センター長</p>	<p>はい。私の方から学校生活に関するアンケートについてご報告させていただきます。</p> <p>平成30年11月策定の学校再編整備計画に基づき、四條畷東小学校は令和元年度末をもって廃校となり、令和2年度より新たな校区となった四條畷小学校がスタートしております。そこで、円滑な転籍に向けて、転籍後の状況把握を趣旨に、本年7月に実施した四條畷小学校における、令和2年度からの学校生活に関するアンケートを実施いたしました。その結果について、概要を報告させていただ</p>

<p>教育部次長兼学校 教育課長兼教育セ ンター長</p>	<p>きます。お配りの資料につきましては昨日、保護者あて配付させていただいたものでございます。</p> <p>平成30年度の南中の休校に伴う再編時に四條畷中学校で行ったアンケートをベースとし、本年7月27日から31日の5日間、四條畷小学校に在籍する全保護者（児童一人につき1枚回答）667人に配布、回答数につきましては481人で、回収率は72%となっております。</p> <p>主な質問項目では、「新たな校区となった学校生活について」、友達や授業、学校行事、楽しみ、友だちと交流、学校の施設について問いました。結果につきましてはご覧のとおりです。</p> <p>「学校行事が活発」の数値が特に低いのは、新型コロナウイルス感染拡大防止を趣旨として学校自体が、学校行事を控えているからと考えられます。</p> <p>次に、「通学路について」、「裏面の転籍の不安について」は旧東小学校の保護者のみお答えをいただいております。通学路の整備については、転籍の不安内容と同様、課題として我々は捉えております。今後も保護者と協議を重ね、さらなる安全対策を講じられるよう協議を重ねていきたいと考えています。</p> <p>次に、裏面ですが、「現状を踏まえ今後望むこと」につきましては、複数回答をいただいておりますが、上位から新型コロナウイルス対策、熱中症対策、通学路の安全となっております。</p> <p>最後に、自由記述の主な内容として、学習や登下校、健康管理や学校行事、学校運営など多岐にわたるご意見を伺いました。今後は保護者あて結果報告を行ってまいります。また、取組みの進捗状況を見るため、令和3年1月をめどにまた同じアンケートをとらせていただき、進捗をみさせていただきたいと考えております。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>例年と同じ学校生活が送れないなかでのアンケートという形になっておりますが、拝見するに、例えば新しい友達が増えたとか、こういう項目であったり、それぞれの項目がコロナ禍という状況で想定しているよりも、肯定的な意見も見受けられて、過去、長時間かけて取り組んできた学校再編の取組みですが、一定、進めてきた意味があったのかと思います。</p> <p>しかしながら、やはり常にこうしたアンケートのなかで我々が見つめないといけないのは、「そうは思わない」あるいは「どちらかといえばそうは思わない」という形でご意見をいただいている保護者の皆様方、子どもたちの思いは何なのかというところを、いかに受</p>

市長	<p>けとめて改善していけるか、これは教育委員会のみならず、我々市長部局含めて共に、こうした方々が不安を減らしていただけるよう取り組んでいく必要があるのかと改めて思います。</p> <p>私の方からは以上ですが、何か教育委員の方から付け加えること等あればお願いいたします。教育長お願いします。</p>
教育長	<p>実はコロナのなかで学校再開と同時に、何回か朝の登校風景を拝見いたしました。もちろん、コロナの状況からの復帰ですので、やや疲れ気味かなと思いきや、子どもたちが皆、元気に登校している姿、これはある意味安堵しましたし、おそらく、学校のなかでもその新しい四條畷小学校を作っていくんだという、そういう校長先生のリーダーシップもとの学校づくりが、おそらく功を奏しているのではないかなと推察いたしました。引き続き、こういったアンケートを真摯に受けとめながら、策に努めてまいりたいと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、その他何か事務局からございますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>もしなければ、緊急的なものがない限り、おそらく本日の総合教育会議が吉田委員の最後の総合教育会議になろうかと推察されますので、もしよろしければ最後に何か一言ごあいさつをいただければと思います。よろしくお願いします。</p>
吉田委員	<p>お時間いただきましてありがとうございます。</p> <p>何も分からない状態で始まった、市長とともに過ごさせていただきました4年間で、おそらくあと1ヶ月残っていますが、何も問題なく任期を無事に終えそうな状態になっております。</p> <p>これも皆様のおかげだと思って感謝しております。どうもありがとうございます。また、あと1ヶ月ありますが、よろしく願いいたします。この職を離れてからもいろんなことに関わらせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>学校の再編を注力していくなかで、保護者というお立場で教育委員として従事していただいていたわけですが、最もおそらく過酷なといえますか、辛いお立場もあつたんじゃないかなと推察します。</p> <p>そうしたなかで、いつも常に前向きで、様々な観点からのご意見、我々にはない観点からのご意見をたくさんいただきました。</p>

市長	そのうえで、共にこの総合教育会議のなかで教育行政の議論できましたことを心からうれしく思いますし、感謝申し上げます。 本当にありがとうございました。
市長	その他、事務局からも何かございますでしょうか。 (特になし)
市長	それではこれをもちまして令和2年度第2回総合教育会議を閉会させていただきます。本日もありがとうございました。